デイリー・マーケット・レポート

東京市場デイリー・レビュー／2026 年 11 月 11 日（水） 発行：ていネコの投資ノート

1．本日のサマリー

- 日経平均は前日比 789.01 円高（+1.31%）の 61,248.59 円と 3 日続伸し、6 日の急落前に当たる 5 日の終値 61,077.90 円を上回った。TOPIX も 35.68 ポイント高（+0.92%）の 3,929.39 と 3 日続伸した。
- 前日の米国株は 10 月 CPI の上振れと FRB 高官のタカ派発言で反落し、朝方は様子見だった。米コアウィーブの好決算を受けた時間外の米株先物高と、米アンソロピックの上場準備をめぐる報道が AI・半導体株の買い戻しを誘った。
- 上昇は値がさ半導体株に集中した。アドバンテスト（寄与 377.56 円）と東エレク（同 134.50 円）の 2 銘柄で計 512.06 円と、上げ幅の 64.9%を占めた（筆者算出）。値上がり 834 に対し値下がり 666 と、物色の広がりは限られた。
- 債券は大幅安。米利上げ観測と日銀の 12 月利上げ観測を背景に、新発 10 年債利回りは 2.779%（+0.107 ポイント）、5 年債は 2.186%（+0.114 ポイント）と、確認した 4 年限すべてで上昇した。12 日の 5 年債入札と、13 日のオプション SQ・米生産者物価指数が当面の関門となる。

2．主要指標

指標	水準	前日比	備考
日経平均	61,248.59	+789.01	+1.31%、3 日続伸。日中高値 61,390.79
TOPIX	3,929.39	+35.68	+0.92%、3 日続伸
東証プライム売買代金	8 兆 6,968 億円		概算。前日の 9 兆 1,555 億円を下回る
値上がり／値下がり銘柄数	834／666		変わらず 45。33 業種中 20 業種が上昇
新発 10 年国債利回り	2.779%	+0.107pt	フィスコ日次系列（脚注参照）
2 年国債利回り	1.844%	+0.083pt	政策金利見通しに敏感な年限も上昇
5 年国債利回り	2.186%	+0.114pt	確認した 4 年限で上昇幅最大
20 年国債利回り	3.651%	+0.104pt	超長期も売られる
長期国債先物 12 月限	126.85 円	-0.83 円	寄付 127.13 円、安値 126.77 円
ドル円	158.81 円	+0.06 円	15 時時点。東京時間高値 158.96 円
ユーロ円	177.24 円	+0.01 円	15 時時点
NY ダウ	52,231.89	-157.86	10 日。反落
S&P500	7,520.93	-29.01	10 日
ナスダック総合	25,065.87	-187.27	10 日
SOX 指数	9,998.33	-35.60	10 日。半導体株は小幅安
米 10 年債利回り	4.986%	+0.108pt	10 日。CPI 上振れで上昇
WTI 原油 12 月限	86.04 ドル	-0.81 ドル	10 日清算値
NY 金 12 月限	4,030.2 ドル	-84.3 ドル	10 日清算値（COMEX 先物）
CME 日経平均先物	60,060 円		10 日清算値（円建て）
韓国 KOSPI	5,375.36	+136.23	11 日終値
上海総合指数	3,680.64	+16.92	11 日終値

3．株式市場

値動きの経緯

日経平均は上昇して始まったものの、前場は戻り待ちの売りに押されたとされ、一時マイナス圏に沈んだ。その後は米コアウィーブ株の時間外取引での上昇や短期筋の先物買いをきっかけに切り返したと報じられており、後場は次第高の展開となった。14 時 43 分には日中高値の 61,390.79 円を付け、大引けもその近辺で終えた。TOPIX も 3 日続伸したが、上昇率は日経平均を下回った。6 日に 3,643.13 円安と過去 3 番目の下げ幅を記録してから 3 営業日で、その下げをすべて埋めたことになる。

材料

前日の米国市場は、10 月の消費者物価指数（CPI）が総合で前月比 0.4%、コアで同 0.3%と市場予想を上回り、ウォラー FRB 理事やローガン・ダラス連銀総裁がさらなる利上げに前向きな発言をしたことで売りが優勢だった。シカゴの日経平均先物（円建て）も 60,060 円と、前日の日経平均終値を下回る水準で清算されていた。一方、米市場の取引終了後に発表された米 AI クラウド大手コアウィーブの決算は売上高が予想を上回り、同社株は時間外取引で一時 8%近く上昇した。さらに、19 日の上場が見込まれると報じられている米アンソロピックについて、主幹事団が公開価格の仮条件引き上げを検討しているとの報道があり、AI 関連への投資家心理の改善につながったとみられる。前日に決算を発表したソフトバンク G は朝方に一時大きく下げる場面があったものの、その後は下げ渋り、小幅安で終えた。

物色動向

業種別では繊維製品（+3.23%）、電気機器（+2.45%）、銀行業（+2.38%）が上昇率の上位に並んだが、上昇は 33 業種中 20 業種と全体の 6 割程度にとどまった。電気機器は半導体関連の買い戻し、銀行業は国内金利の上昇による利ざや改善期待が支えとみられる。一方で下落率の上位はゴム製品（-1.48%）、陸運業（-1.38%）、空運業（-1.15%）と内需・ディフェンシブ系が目立ち、指数寄与ではファーストリテ（-88.19 円）が最大の押し下げ要因だった。押し上げ側では、半導体 2 銘柄に次いでイビデン（67.69 円）の寄与が大きかった。個別では、売買代金首位のキオクシア HD が上値を追い、レーザーテックも大きく水準を切り上げた一方、ホンダやリクルート HD は下落した。売買代金は 8 兆 6,968 億円と、前日比約 5%減少した（筆者算出）。

4．本日の主題：半導体主導の戻りと、急騰する金利の綱引き

本日の日経平均の上昇は、構成銘柄の寄与度で見ると偏りが大きい。値上がり銘柄の寄与合計は 1,123.11 円、値下がり銘柄は 334.10 円の押し下げで、差し引き 789.01 円が前日比と一致する。その中でアドバンテストと東エレクの 2 銘柄だけで 512.06 円を稼ぎ出した。TOPIX の上昇率（+0.92%）が日経平均（+1.31%）を下回り、NT 倍率（日経平均÷TOPIX）も前日の 15.53 から 15.59 へ上昇した（いずれも筆者算出）。

注目すべきは、こうした値がさのグロース株の上昇が、国内外の金利の急上昇と同時に起きた点である。米 10 年債利回りは前日に 4.986%（+0.108 ポイント）へ上昇し、国内でも 10 年債利回りが前日比+0.107 ポイント、2 年債が+0.083 ポイントと、政策金利の見通しに敏感な短中期債まで売られた。外為どっとコム総研によれば、日銀の 12 月利上げも 70%台が織り込まれているという。本来なら金利上昇は株価収益率の高い半導体株の逆風だが、本日はコアウィーブ決算やアンソロピックの上場に関する報道という AI 関連のニュースが、金利の重しを上回ったと筆者はみている。

筆者の見方では、本日の戻りは「AI 関連の材料が金利の逆風を押し返した」結果であり、地合いが全面的に好転したとは言い切れない。TOPIX は 3,929.39 と、5 日の終値 3,940.39 をなお下回り、市場全体の回復は道半ばである。今後は、金利上昇の中でも AI 関連株への買いが続くのか、材料一巡後に金利の重しが再び意識されるのかが焦点となる。

5．債券・金利

長期国債先物 12 月限は 127.13 円で寄り付いた後、126.77 円まで売られ、126.85 円（-0.83 円）で取引を終えた。新発国債利回りは 2 年債 1.844%（+0.083 ポイント）、5 年債 2.186%（+0.114 ポイント）、10 年債 2.779%（+0.107 ポイント）、20 年債 3.651%（+0.104 ポイント）と、確認した 4 年限すべてで大幅に上昇した。前日の米 CPI 上振れを受けた米金利の上昇に加え、日銀の 12 月利上げ観測が中期ゾーンの売りを促したとみられ、4 年限のうち 5 年債の上昇幅が最も大きかった。12 日には 5 年債入札が予定されており、利回り上昇後の水準で投資家の需要がどの程度集まるかが注目される。

6．為替・商品

ドル円は 15 時時点で 158.81 円（NY 終値比+0.06 円）と、東京時間は 158 円台後半でのもみ合いに終始し、高値は 158.96 円にとどまった。米利上げ観測がドルを支える一方、159～160 円では介入への警戒が上値を抑えているとされる。商品では、WTI 原油 12 月限が 86.04 ドル（-0.81 ドル）と下落した。米国とイランの交渉進展への期待で売られた後、イラン側が交渉の実施を否定したことで下げ幅を縮めた。NY 金 12 月限は米長期金利の上昇を受けて 4,030.2 ドル（-84.3 ドル）と大きく下落した。

7．海外市場の動向

10 日の米国市場は NY ダウが 52,231.89 ドル（-157.86 ドル）と反落し、S&P500 は 7,520.93（-29.01）、ナスダック総合は 25,065.87（-187.27）で終えた。エヌビディアは同社 CEO をめぐる外国情報機関の工作疑惑の報道を受け、対中輸出規制の強化が懸念されて下落し、SOX 指数も 9,998.33（-35.60）と小幅に下げた。東京時間には米株価指数先物が上昇した。アジアでは、韓国 KOSPI が 5,375.36（+136.23）と大きく上昇し、上海総合指数も 3,680.64（+16.92）と上昇した。

8．直近の推移

日付	日経平均	前日比	TOPIX	10 年債	売買代金（円）
11 月 6 日（金）	57,434.77	-3,643.13	3,707.99	2.629%	12 兆 4,808 億
11 月 9 日（月）	58,775.50	+1,340.73	3,818.16	2.648%	8 兆 9,118 億
11 月 10 日（火）	60,459.58	+1,684.08	3,893.71	2.672%	9 兆 1,555 億
11 月 11 日（水）	61,248.59	+789.01	3,929.39	2.779%	8 兆 6,968 億

9．総括と注目点

本日の東京市場は、前日の米株安を跳ね返して日経平均が 3 日続伸し、6 日の急落分を埋めた。ただし上昇の 6 割強を半導体 2 銘柄が担い、TOPIX は急落前の水準に届いていない。同時に国内外の金利は急上昇しており、AI 関連の材料と金利上昇の綱引きが続く局面とみられる。

- 12 日：5 年国債入札、10 月企業物価指数。中期債の需給と物価動向を確認したい
- 12 日（米国時間）：アプライド・マテリアルズの決算。半導体製造装置の需要見通しは、アドバンテストや東エレクの株価を左右しうる
- 13 日：オプション SQ と米 10 月生産者物価指数。CPI に続いて物価指標が上振れれば、米利上げ幅の拡大観測が強まる可能性がある
- 19 日：アンソロピックの上場（報道上の見込み）。公開価格の水準は AI 関連株全体の評価を測る材料として注目される

【脚注】本資料の情報締切は 2026 年 11 月 11 日（水）17 時 20 分（日本時間）です。本資料は生成 AI を用いて公開情報を整理・執筆したものです。国内外の利回りの前日比はパーセントポイント（表では pt）で示しています。前日比・騰落率は当日値と前営業日値の差として筆者が算出しました。寄与度の合計・比率、NT 倍率は筆者算出です。東証プライムの売買代金は概算値です。騰落銘柄数は株探 15 時 32 分配信の値で、同 16 時 21 分配信では値上がり 836・値下がり 668・変わらず 47 とされています。国内債利回り・長期国債先物の寄付と安値はフィスコ日次「日本国債市場」のみで確認した値（単一出典）で、直近の推移の 10 年債も同系列で揃えました。DZH は 10 年債を 2.790%（+0.100 ポイント）と配信しており、提供元の異なる別系列のため併記します。ドル円・ユーロ円・ドル円高値は DZH のみで確認（単一出典）、前日比は NY 終値比です。韓国 KOSPI と上海総合指数は株探のみで確認した値（単一出典）で、前日比は株探の印字値であり、筆者による検算は未実施です。ナスダック総合の前日比は株探の系列（前日終値 25,253.14）で算出し、米セントルイス連銀 FRED の掲載値とも一致します。DZH は終値を 25,065.88（-187.26）としています。11 月 5 日・6 日の TOPIX と 5 日の日経平均は株探（松井証券ニュース転載）のみで確認しました。香港ハンセン指数は作成時点で終値を確認できなかったため掲載していません。

【出典】株探（MINKABU PRESS・フィスコ配信記事を含む）、財経新聞（フィスコ）、マネーポスト（フィスコ）、松井証券ニュース（株探転載）、DZH Financial Research（OANDA・MyForex 掲載）、共同通信（OANDA 掲載）、ロイター（ニューズウィーク日本版）、TBL アドバイザリー、media-ir、マネックス証券、Nasdaq 公式、FRED（米セントルイス連銀）、stock-marketdata.com、Newspim、外為どっとコム総研、Yahoo!ファイナンス（フィスコ）

本資料は公開情報に基づく市況の整理であり、特定の銘柄の売買を推奨するものではありません。投資判断はご自身の責任でお願いいたします。